

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【報告書タイトル】

ザンビアの音楽を味わおう

【実践者】


氏名	鈴木綾子	学校名	秋田県立五城目高等学校
担当教科等	芸術・音楽	対象学年（人数）	2年A組音楽選択者（6名）
実践年月日（時数）	令和6年9月24日、10月1日（2時間）		

【実践概要】

1 題材名	ザンビアの音楽 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説【芸術（音楽）編】内容：鑑賞（1）鑑賞及び【共通事項】（1）	
2 題材目標	ザンビアの音楽の特徴を知り、そのよさや美しさを感じ取る。 関連する学習指導要領上の目標 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	
3 題材の評価規準	①知識及び技能	ザンビアの音楽の特徴と文化的、歴史的背景との関わりについて理解している。
	②思考力、判断力、表現力等	ザンビアの人々にとっての音楽の意味や価値について考えとともに、ザンビアの音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。
	③主体的に学習に取り組む態度	ザンビアの音楽に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。
4 題材設定の理由・題材の意義 (生徒観、教材観、指導観)	【題材設定の理由】対象クラスは、入学時より鑑賞においては西洋音楽だけでなく、ジャズやロックなどのポピュラー音楽や我が国の伝統音楽なども学習してきた。1学期には、使用教科書「音楽Ⅱ Tutti+」（教育出版）に掲載されている13種類の世界の声の音楽、楽器の音楽、音楽と踊りの中から一つを選び、プレゼンテーションを行い、音楽文化の多様性について理解を深めた。さらに深い学びにつなげるねらいで本題材を設定した。 【題材の意義】ザンビアでは人々の生活と宗教が密接に結びつき、音楽もその中の大切な要素である。生徒たちがそのことに気づき、音で感じ取ることができるようにしたい。 【生徒観】音楽の学習に対する関心や意欲が高い生徒が多く履修している。歌唱ではよく声が出るし、器楽ではリコーダーをチャイムが鳴る前からリコーダーを自主的に練習している。ただ、生徒の中には不器用な生徒や複雑な内容の理解に時間がかかる生徒もいるため、丁寧に説明したり指示を明確にしたりする配慮を要する。多様な生徒に対応するために安心感を与えながら音楽を楽しむような授業の雰囲気づくりを心がけたい。 【教材観】本題材では、指導者が教師海外研修でザンビアへ赴き、記録してきた現地の人々の演奏した歌や踊りを取り上げる。ザンビアの人々にとっての音楽の	

	<p>意味や価値について考え、ザンビアの音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことをねらいにする。</p> <p>【指導観】 まず、教師自身がザンビアの音楽のよさを味わい、それを生徒たちと共有していきたい。生徒たちが多様な文化を認める意識をもつ国際理解教育につなげていきたい。</p>
--	--

5 題材計画 (全2時間)			
時	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	ザンビアの音楽の特徴と、その音楽が生まれた地域や風土、人々の生活、文化や伝統などについて理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ザンビアに持参した演奏動画の感想インタビューを視聴する。 ザンビアの音楽を音声だけ聴く。 ザンビアの音楽を映像付きで鑑賞する。 ザンビアの音楽の特徴的なリズムを学ぶ。 	インタビュー動画 演奏の音声 演奏の動画
2	ザンビアの人々にとっての音楽の意味について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ザンビアでのインタビュー「たいせつなもの」「将来の夢」を視聴する。 歌詞の内容を想像しながらザンビアの歌を鑑賞する。 現地へ届けるつもりで感想を書く。 	インタビュー動画 歌詞の日本語訳

6 本時の展開 (1時間目)			
本時のねらい：ザンビアの音楽の特徴と、その音楽が生まれた地域や風土、人々の生活、文化や伝統などについて理解を深める。			
過程 (時間)	学習活動	指導上の留意点	教材・資料
導入 (10分)	1 既習曲 (1) 既習曲を歌う。  (2) ザンビアに持参した演奏動画の感想インタビューを視聴する。	<ul style="list-style-type: none"> ザンビアの概要(面積・人口・首都・言語)を説明する。 「ザンビアでは音楽の授業がほとんどない」という答えに注目させる。 	教科書 P8「Tomorrow」 岡本真夜作詞作曲 【感想インタビュー】 グリーンビュー村 Destiny コミュニティスクール デービッドカウンダ STEM 中等学校
展開① (15分)	2 ザンビアの音楽を音声だけ聴く。 (1) A～Cの音声の第一印象をワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 聴いて感じた第一印象を素直に記入するように促す。 	【音声】 A：グリーンビュー村 B：エヴリン・ホン短

期大学

C: Destiny コミュニ
ティスクール

(2) どんなシーンで歌っているか想像する。

(3) A~C の音声が①~③のどれに当てはまる
か考える。

A: グリーンビュー村	①: Destiny コミュニティスクール
B: エヴリン・ホン短期大学	②: グリーンビュー村
C: Destiny コミュニティスクール	③: エヴリン・ホン短期大学

・次の3点を想像させる。「どんな場所?」「どんな時?」「どんな気持ち?」

・(1)(2)で考えたことをペアで共有した後、Chromebook を使って音声を聴き、どれに当てはまるか考えさせる。

・根拠をもって説明できるように、音楽の特徴に注目させる。

・特徴を捉えやすいように、音声と一緒に口ずさんだり手拍子したりするように助言する。

・それぞれのペアの考えを付箋に書かせ、全体で共有する。



展開②

(20分)

3 ザンビアの音楽を映像付きで鑑賞する。

(2①～③)

(1) 印象をワークシートに記入する。

(2) 特徴的なリズムについて知る。

- ① クラベのリズム ② ヘミオラ
- ③ 3/4拍子と6/8拍子の混在

映像

- ① : Destiny コミュニティスクール
- ② : グリーンビュー村
- ③ : エヴリン・ホン短期大学

・演奏者の表情に注目させる。

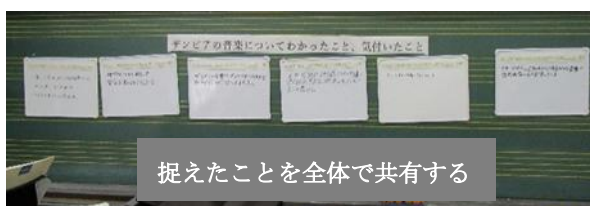
・特徴的なリズムを取り上げ、手拍子させる。



(3) ザンビアの音楽についてわかったこと、気付いたことを記入する。

・どのような音楽の特徴が表れているか捉えさせる。

・それぞれが捉えたことをミニホワイトボードに大きく記入させ、全体で共有する。



<p>まとめ (5分)</p>	<p>4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>・次時はインタビュー（大切なもの、将来の夢）を視聴したり、歌詞の意味を想像したりしながら、ザンビアの人々にとっての音楽の意味や価値について考え、現地へ届けるつもりで感想を書くことを説明する。</p>
---------------------	------------------------------	--

7 本時の振り返り

ザンビアに親しみ、身近に感じることができるよう教室内にザンビアの民芸品を展示したり、伝統衣装を着用したりしたところ、生徒たちは笑顔で楽しそうに授業に臨んでいた。

教師から一方的に教えるよりも生徒自身に気付かせ、気付いたことを音で確かめること、それを仲間と共有できるような学習展開を工夫した。ペアでの活動が想定以上に時間がかかってしまい、「特徴的なリズムについて知る」学習活動の時間が足りなくなったこと、それぞれが捉えたことを全体で共有することが不十分となったことが残念であった。

8 学習方法及び外部との連携

- ・ Chromebook
 - 生徒自身にザンビアの音楽の特徴について気付かせ、言葉にしたことを音で確かめるために使用した。音楽室に Wi-Fi 設備がないため、あらかじめ音声をそれぞれの機器にダウンロードした。
- ・ 付箋紙、ホワイトボード
 - 生徒個人やペアで考えたことを全体で共有するために使用した。Jamboard や FigJam などのデジタルツールも効率的だが、6人と少人数であるため生徒相互の直接の対話を期待して、敢えてアナログツールとした。
- ・ 指導助言
 - 秋田県総合教育センター指導主事鈴木智美先生から指導案作成段階から多岐にわたるご指導を頂いた。本校の教育方針・教育目標を踏まえて授業をすることの重要性を再認識した。
- ・ 音楽分析
 - 私自身、民族音楽やポピュラー音楽についての知識が乏しいため、ザンビアの音楽の分析にあたっては、プロのドラマーや作曲を専攻とする音楽の先生からご協力頂いた。

9 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

本授業は、秋田県高等学校教育研究会の研究協議会として、秋田県の高等学校音楽教員32名が参観した。アフリカ地域の音楽を取り上げた授業の実践事例が少なく、教師が現地に赴いて、それを授業で取り上げるといった新しい提案ができた。今後も西洋音楽に偏ることなく、世界の諸民族の音楽や日本の伝統音楽も授業で積極的に取り上げ、生徒たちが多様な文化を認める意識をもつ国際理解教育につなげていきたい。

参観者からは次のような意見があった。(○：成果／△：課題)

○生徒にとって現地の人から感想をもらえるというのは、ザンビアへの興味が高まったと思う。

○現地でしか体験できないことを生徒にダイレクトに還元しており、生きた授業であった。

△譜例を用意して何度も繰り返してリズムを手拍子できるようにすると、生徒はリズムの特徴を実感し、理解も深まったと思う。

△アフリカの音楽といってもいろいろな部族がいて、そこに根付く音楽があるわけでひとくくりにはできない。クラーベ＝ザンビアの音楽としてしまうのは少し危険でないか。

【自己評価】

<p>10 苦労した点</p>	<p>現地で記録してきた映像を教材化するにあたり、全体で鑑賞したり、個別のChromebookで聴いたりする方法について、他の先生方からサポートしていただきながら実践することができた。</p> <p>全体で鑑賞する際にパソコンのデータは音声が低くなる問題があったが、Bluetoothスピーカーとパソコンを接続することで適切な音量で再生することができた。また、インタビュー動画を視聴する際にはYouTubeの自動翻訳機能は翻訳作業なしですぐに翻訳ができ、便利であった。ただ、精度が低く話している内容が正しく認識されず正しく翻訳できないケースが多く、補足して説明する必要があった。</p>
<p>11 改善点</p>	<p>「特徴的なリズムについて知る」学習活動の時間を十分に確保することである。生徒のホワイトボードへの記載を見ると、どのような音楽の特徴が表れているか十分に捉えられている生徒は少なかった。本時はリズムにフォーカスするねらだったので、何度も繰り返し、リズムを覚えて手拍子できるようにすると、生徒はリズムの特徴を実感し、理解も深まったと思う。</p>
<p>12 成果が出た点</p>	<p>たくさんの生徒から「ザンビア人会ってみたい」、「ザンビアに行ってみよう」という声が上がった。生徒が作成したザンビアの音楽の感想を現地に届けてもらったところ、首都ルサカにあるエヴリンホン・ホン短期大学とのオンライン交流が実現しそうである。</p> <p>ある生徒が授業後に次のような感想を述べた。「勝手にかわいそうなイメージがあったけど、ザンビア人は明るく元気で音楽を日常に取り入れていてすごいなあと思いました。」音楽を通してザンビア人の人柄を想い、そしてリスペクトする態度が生まれたのではないかなと思う。</p>
<p>13 学びの軌跡 (生徒の感想文、 作文、ノートなど)</p>	<p>◆ 第1時のまとめに「ザンビアの音楽についてわかったこと、気付いたこと」を生徒が記入したホワイトボード</p> <p>・ 皆が和気あつあつとした感じが歌っている。 ・ 明るく楽しい感じがあった。 ・ リズムに乗って歌った。</p> <p>ザンビアの音楽はクラベやヘミオラなどの特徴的なリズムでおもしろい。 クラベやヘミオラのように一般的な音楽使われないものを覚えている</p> <p>それぞれの地域によって違う どくどくとしたリズムがあっておもしろいと思った。 独特なリズムで明るい曲 音楽を楽しんでおもしろい リズムが独特でおもしろい</p>

	<p>◆ 生徒が英語で作文したザンビアの音楽の感想→エヴリン・ホン短期大学へ送った。今後現地とオンラインで交流する予定である。</p> <p>男子生徒:I thought it was a wonderful song, with the use of all the instruments and the way you sang, and everyone seemed to be having a great time.</p> <p>男子生徒:Thank you for letting me your music. I think it’ s amazing how you all use so many different instruments and enjoy music together while praying to God.</p> <p>男子生徒:Zambian music was very interesting with unique rhythms compared to Japanese music. I thought there were few people in Japan who could imitate it.</p> <p>男子生徒:Seeing you singing happily makes me want to sing too. I love you.</p> <p>女子生徒:It was good to hear different kind of music from Japanese music. It cheered me up a lot to see so many bright smiling faces. thank you so much.</p> <p>女子生徒:It was a very bright song, a cheerful tune that would get you into the rhythm. The Zambian people are very confident about themselves and when they sing, they show their individuality and regional characteristics in their songs.</p>
<p>14 授業者による自由記述</p>	<p>今回、教師海外研修に参加し、大変貴重な経験をさせていただいた。特に私は高等学校で芸術・音楽を担当しているので、音楽をはじめとするザンビアの文化を自分自身の五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）で感じ取り、自分の経験してきたホンモノを生徒へ還元することができたことは今後の教員生活において大きな財産になる。</p> <p>「私は、人類の向上のために人々を結びつけることができる音楽の力を知っていますし、信じています。その例として“We Are the World” 以上のものはないかもしれません。だからこそ、それが世界中で共鳴し、今でもそうなんです」</p> <p>クインシー・ジョーンズ (USA for Africa のプロデューサー)</p> <p>これからの国際社会を生きる高校生にとって、互いの文化を尊重し、多様な文化を認める態度を養うことは意義深いと思う。音楽教育がその一助となることを願い、今後も音楽の授業で世界の諸民族の音楽を取り上げていきたい。また、多様な文化を認めることは、自国の文化のよさを再認識することになると思う。和楽器や日本の古典芸能、郷土の音楽なども音楽の授業で学習し、生徒たちが将来、他国人に出会ったときに日本の伝統音楽のよさを伝えられるようになって欲しい。</p>

参考資料：

「ザンビアを知るための55章」（島田周平・大山修平編著、明石書店）

「アフリカ音楽の正体」（塚田健一著、音楽之友社）

「スマホを捨てたい子どもたち 野生に学ぶ未知の時代の生き方」（山極壽一著、ポプラ出版）

本時の目標：音楽の背景を想像しながら、ザンビアの音楽を味わおう

活動1 ザンビアの音楽を音声だけ聴いてみよう。

(1) それぞれの第一印象はどうでしたか？

	A	B	C
第一印象			

(2) どんなシーンで歌っているか想像してみよう。

	A	B	C
シーン			

(3) A~Cの音声①~③のどれに当てはまるか考えよう。

①Destiny コミュニティスクール	②グリーンビュー村	③エヴリン・ホン短期大学
 <p>コンパウンドと呼ばれる低所得地域の一つであるマテロ地区にある初等教育学校。</p>	 <p>ルサカ州内の農村部。宮城県丸森町の農業技術を伝える技術教育を行っている。</p>	 <p>首都ルサカにある教員養成課程の短期大学。入試に音楽の専門実技はない。</p>

活動2 ザンビアの音楽を映像付きで鑑賞しよう。

(1) 映像が付くと、印象はどうでしたか？

	①Destiny コミュニティスクール	②グリーンビュー村	③エヴリン・ホン短期大学
印象			

(2) 特徴的なリズムを手拍子してみよう。

	①Destiny コミュニティスクール	②グリーンビュー村	③エヴリン・ホン短期大学
リズム	() 南米のリズムだが、その起源はアフリカにある？	() 本来なら2分割すべきものを例外的に3分割すること	() 拍子と () 拍子が 混在している

(3) ザンビアの音楽についてわかったこと、気付いたこと

自己評価 音楽の背景を想像しながら、ザンビアの音楽を味わうことができたか。 A B C D

感想
